

社会知性開発研究センター

社会知性開発研究センターの各研究プロジェクトは、研究成果を広く公表するため、公開シンポジウムを実施している。今回はソーシャル・ウェルビーイング研究センター、古代東ユーラシア研究センター、アジア産業研究センター(いずれも文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)の3プロジェクトがシンポジウムを開催した。

3プロジェクトでシンポジウム

新興市場ビジネス入門 国際経営のフロンティア 現場と研究の両面において、それまでのさまざまな常識が転換されつつある。国際経営のフロンティアとしての新興市場ビジネスを学ぶことで、ダイナミックに進化する世界を実感してほしい。大企業と異なり、制約の多い「スタートアップ」や個人が持つ力を発揮するにはどうすればよいかに通じる議論満載である。(中央経済社・本体2300円+税)

ソーシャル・ウェルビーイング研究センター アジア各国からの研究者集う

社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター(研究代表 原田博夫 経済学部教授)は、アジア6カ国からゲストを招いてのシンポジウムを6月25日、サテライトキャンパスで開催した。

シンポジウムのテーマは「アジアにおけるソーシャル・ウェルビーイング・アンケート調査を踏まえて」(Social Well-being in Asia: Empirical Evidence and Theoretical Perspectives)。議論はすべて英語で行われた。司会を飯沼健子経済学部教授が担当し、原田博夫研究代表の開会あいさつに続き、各国の報告が行われた。

今回のシンポジウムは、現在アジア各国で進められている幸福感を問うアンケート調査をめぐって行われた。ベトナム、韓国の実施調査結果が報告された。そこから得られた基本的な知見と分析が続いて今後アンケート調査を行う予定のフィリピン、タイ、インドネシア、中国の研究者が、幸福感をめぐめる実証研究の意義や、幸福感を生み出す政策との関連について、それぞれ研究報告を行った。その後出席者全員が参加してのディスカッションに移り、各国の現状や今後のアンケート調査をめぐっての問題点、研究報告についてコメントするなど、活発な議論がなされた。

次の国際シンポジウムの開催国タイのチュロンコン大学代表の Srichai Win'gaeo 教授が「今回のシンポジウムの大きな成果と、バンコクでの再会を楽しみにしている」と閉会あいさつをしてシンポジウムを締めくくった。

登壇した各国の講師は次の通り(日本人研究者の所属はすべて専修大学)。

- ▽原田博夫▽金井雅之▽田中康裕▽Jaeveol Yee(ソウル国立大学)
- ▽Hearan Koo(同)
- ▽Be-Sun Kim(同)
- ▽Nghiem Thi Thuy(ベトナム社会科学学院)
- ▽Dang Nguyen Anh(同)
- ▽Emma Porio(アテネオ・デ・マニラ大学)
- ▽Srichai Win'gaeo(チュロンコン大学)

渡来集団の流動と土着化を追求するプロジェクトで、シンポジウムは今年度1回目。中国・西安市で近年出土した唐代の墓誌を中心テーマに、日中の研究者4氏が講演、最新の研究成果に200人を超える参加者が聴き入った。通訳は土屋昌明経済学部教授らが務めた。

故人の氏名や経歴、功績を石などに刻み墓に納めた墓誌は、開発ラッシュの中国で出土が相次ぐ。2004年、中国出張中の故矢野建一学長が西安市の西北大学で遭った「井真成」の墓誌を偶然発見。その後、西北大学とは共同で研究を重ねるなど、本学との関わりも深い。

中国墓誌研究の第一人者で、陝西師範大学(西安市)元教授の胡載氏が、最近5年間に出土した約40件の墓誌の内容を読み解き「労働者も高級官僚も階層にかかわらず仁義や忠義、孝行を人生の富と考えていた。墓誌は当時の人々の精神世界を伝えてくれる」と研究の意義を語った。

6世紀半ばにはその子孫が百済で日系官僚として活躍するなど、多様な交流の実態を語った。討論では隋・唐時代には望めば庶民でも墓誌を作れたことや、盗掘が多かった出土品の保護が急がれる現状を胡氏が訴え、双方向的・多方向的なアンケート結果を報告。「原材料を日本から仕入れ、完成した製品を日本で販売する加工貿易が現状では多い」と指摘したほか、現地調査したベトナム、ラオス、カンボジアの物流事情を語った。国立フィリピン大学附属都市計画・地域計画大学院課程教授のジュン・Tカストロ氏は、ASEAN加盟国の立場から、域内での貿易自由化と市場統合を目指すASEAN経済共同体(AEC)の展望を解説。陸、海、空の交通インフラの整備計画を英語で紹介し、小林教授が通訳した。一方、豪ジェームズック大学特任教授のマシュー・アレックス氏は経済成長に主軸を置いた論点と一線を画した。九州大学に留学し琉球大学で研究員を務めたこともある同氏は、文化人類学や社会学が専門。ラオスで鉱山開発を行う豪系企業を引き合いに企業の社会的責任に言及し、「外国に進出する企業には、現地の文化を尊重し環境に配慮する責任がある」と日本語で語りかけた。

本書では流通イノベーションを、日常生活をより便利にするレベルから大きな社会変革まで幅のある捉え方をしており、新たな顧客価値を創造し提供するための取り組みであるとしている。今後、我々の生活やビジネスの発展に、ますます流通イノベーションが不可欠になることも強調した。流通をより深く研究したい人、買い物や流通業界の新しい動向に関心のある人にもお薦めの一書。(白桃書房・3000円+税)



質問に答える原田研究代表

今回のシンポジウムは、現在アジア各国で進められている幸福感を問うアンケート調査をめぐって行われた。ベトナム、韓国の実施調査結果が報告された。そこから得られた基本的な知見と分析が続いて今後アンケート調査を行う予定のフィリピン、タイ、インドネシア、中国の研究者が、幸福感をめぐめる実証研究の意義や、幸福感を生み出す政策との関連について、それぞれ研究報告を行った。その後出席者全員が参加してのディスカッションに移り、各国の現状や今後のアンケート調査をめぐっての問題点、研究報告についてコメントするなど、活発な議論がなされた。

登壇した各国の講師は次の通り(日本人研究者の所属はすべて専修大学)。

- ▽原田博夫▽金井雅之▽田中康裕▽Jaeveol Yee(ソウル国立大学)
- ▽Hearan Koo(同)
- ▽Be-Sun Kim(同)
- ▽Nghiem Thi Thuy(ベトナム社会科学学院)
- ▽Dang Nguyen Anh(同)
- ▽Emma Porio(アテネオ・デ・マニラ大学)
- ▽Srichai Win'gaeo(チュロンコン大学)

渡来集団の流動と土着化を追求するプロジェクトで、シンポジウムは今年度1回目。中国・西安市で近年出土した唐代の墓誌を中心テーマに、日中の研究者4氏が講演、最新の研究成果に200人を超える参加者が聴き入った。通訳は土屋昌明経済学部教授らが務めた。

故人の氏名や経歴、功績を石などに刻み墓に納めた墓誌は、開発ラッシュの中国で出土が相次ぐ。2004年、中国出張中の故矢野建一学長が西安市の西北大学で遭った「井真成」の墓誌を偶然発見。その後、西北大学とは共同で研究を重ねるなど、本学との関わりも深い。

中国墓誌研究の第一人者で、陝西師範大学(西安市)元教授の胡載氏が、最近5年間に出土した約40件の墓誌の内容を読み解き「労働者も高級官僚も階層にかかわらず仁義や忠義、孝行を人生の富と考えていた。墓誌は当時の人々の精神世界を伝えてくれる」と研究の意義を語った。

6世紀半ばにはその子孫が百済で日系官僚として活躍するなど、多様な交流の実態を語った。討論では隋・唐時代には望めば庶民でも墓誌を作れたことや、盗掘が多かった出土品の保護が急がれる現状を胡氏が訴え、双方向的・多方向的なアンケート結果を報告。「原材料を日本から仕入れ、完成した製品を日本で販売する加工貿易が現状では多い」と指摘したほか、現地調査したベトナム、ラオス、カンボジアの物流事情を語った。国立フィリピン大学附属都市計画・地域計画大学院課程教授のジュン・Tカストロ氏は、ASEAN加盟国の立場から、域内での貿易自由化と市場統合を目指すASEAN経済共同体(AEC)の展望を解説。陸、海、空の交通インフラの整備計画を英語で紹介し、小林教授が通訳した。一方、豪ジェームズック大学特任教授のマシュー・アレックス氏は経済成長に主軸を置いた論点と一線を画した。九州大学に留学し琉球大学で研究員を務めたこともある同氏は、文化人類学や社会学が専門。ラオスで鉱山開発を行う豪系企業を引き合いに企業の社会的責任に言及し、「外国に進出する企業には、現地の文化を尊重し環境に配慮する責任がある」と日本語で語りかけた。

本書では流通イノベーションを、日常生活をより便利にするレベルから大きな社会変革まで幅のある捉え方をしており、新たな顧客価値を創造し提供するための取り組みであるとしている。今後、我々の生活やビジネスの発展に、ますます流通イノベーションが不可欠になることも強調した。流通をより深く研究したい人、買い物や流通業界の新しい動向に関心のある人にもお薦めの一書。(白桃書房・3000円+税)

著者(たぐち・ふゆき) 経営学部教授。主な担当は、マーケティング入門、流通論。

著者(たぐち・ふゆき) 経営学部教授。主な担当は、マーケティング入門、流通論。

アジア産業研究センター



社会知性開発研究センター/アジア産業研究センター(研究代表 小林守商学部教授)の国際シンポジウム「周辺国から見た東南アジア経済発展の実態と課題」が7月23日、神田キャンパスで開かれた。

メコン地域5カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー)とASEANを中心とした関連周辺地域の市場分析をテーマとするプロジェクトの、4回目のシンポジウム。約40人を前に、日比豪の研究者3氏が異なる視点でASEAN域内の物流やビジネスの現状と課題について講演した。

物流を研究する岩尾謙一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への

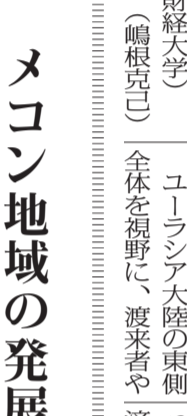
地図を示し、交通インフラの現状を説明するカストロ氏

物流を研究する岩尾謙一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への

地図を示し、交通インフラの現状を説明するカストロ氏

物流を研究する岩尾謙一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への

メコン地域の発展 日比豪の視点で



社会知性開発研究センター/アジア産業研究センター(研究代表 小林守商学部教授)の国際シンポジウム「周辺国から見た東南アジア経済発展の実態と課題」が7月23日、神田キャンパスで開かれた。

メコン地域5カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー)とASEANを中心とした関連周辺地域の市場分析をテーマとするプロジェクトの、4回目のシンポジウム。約40人を前に、日比豪の研究者3氏が異なる視点でASEAN域内の物流やビジネスの現状と課題について講演した。

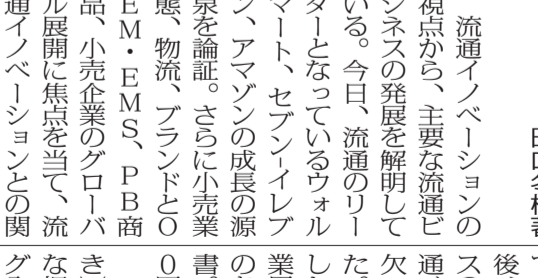
物流を研究する岩尾謙一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への

地図を示し、交通インフラの現状を説明するカストロ氏

物流を研究する岩尾謙一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への

地図を示し、交通インフラの現状を説明するカストロ氏

物流を研究する岩尾謙一郎商学部教授は、昨年度ベトナムで実施した日系企業など101社への



田口冬樹著

著者(たぐち・ふゆき) 経営学部教授。主な担当は、マーケティング入門、流通論。

流通イノベーションの観点から、主要な流通ビジネスの発展を説明している。今日、流通のリーダーとなっているウォルマート、セブンイレブンの成長の源泉を論証。さらに小売業態、物流、ブランドとOEM・EMS、PB商品、小売企業のグローバル展開に焦点を当て、流通イノベーションとの関係性を考察している。

著者(たぐち・ふゆき) 経営学部教授。主な担当は、マーケティング入門、流通論。

著者(たぐち・ふゆき) 経営学部教授。主な担当は、マーケティング入門、流通論。

古代東ユーラシア研究センター



墓誌研究の意義を語った胡氏

渡来集団の流動と土着化を追求するプロジェクトで、シンポジウムは今年度1回目。中国・西安市で近年出土した唐代の墓誌を中心テーマに、日中の研究者4氏が講演、最新の研究成果に200人を超える参加者が聴き入った。通訳は土屋昌明経済学部教授らが務めた。

故人の氏名や経歴、功績を石などに刻み墓に納めた墓誌は、開発ラッシュの中国で出土が相次ぐ。2004年、中国出張中の故矢野建一学長が西安市の西北大学で遭った「井真成」の墓誌を偶然発見。その後、西北大学とは共同で研究を重ねるなど、本学との関わりも深い。

中国墓誌研究の第一人者で、陝西師範大学(西安市)元教授の胡載氏が、最近5年間に出土した約40件の墓誌の内容を読み解き「労働者も高級官僚も階層にかかわらず仁義や忠義、孝行を人生の富と考えていた。墓誌は当時の人々の精神世界を伝えてくれる」と研究の意義を語った。

6世紀半ばにはその子孫が百済で日系官僚として活躍するなど、多様な交流の実態を語った。討論では隋・唐時代には望めば庶民でも墓誌を作れたことや、盗掘が多かった出土品の保護が急がれる現状を胡氏が訴え、双方向的・多方向的なアンケート結果を報告。「原材料を日本から仕入れ、完成した製品を日本で販売する加工貿易が現状では多い」と指摘したほか、現地調査したベトナム、ラオス、カンボジアの物流事情を語った。国立フィリピン大学附属都市計画・地域計画大学院課程教授のジュン・Tカストロ氏は、ASEAN加盟国の立場から、域内での貿易自由化と市場統合を目指すASEAN経済共同体(AEC)の展望を解説。陸、海、空の交通インフラの整備計画を英語で紹介し、小林教授が通訳した。一方、豪ジェームズック大学特任教授のマシュー・アレックス氏は経済成長に主軸を置いた論点と一線を画した。九州大学に留学し琉球大学で研究員を務めたこともある同氏は、文化人類学や社会学が専門。ラオスで鉱山開発を行う豪系企業を引き合いに企業の社会的責任に言及し、「外国に進出する企業には、現地の文化を尊重し環境に配慮する責任がある」と日本語で語りかけた。

本書では流通イノベーションを、日常生活をより便利にするレベルから大きな社会変革まで幅のある捉え方をしており、新たな顧客価値を創造し提供するための取り組みであるとしている。今後、我々の生活やビジネスの発展に、ますます流通イノベーションが不可欠になることも強調した。流通をより深く研究したい人、買い物や流通業界の新しい動向に関心のある人にもお薦めの一書。(白桃書房・3000円+税)

著者(たぐち・ふゆき) 経営学部教授。主な担当は、マーケティング入門、流通論。

新しい本

新興市場ビジネス入門 国際経営のフロンティア



今井雅和著

著者(たぐち・ふゆき) 経営学部教授。主な担当は、マーケティング入門、流通論。